

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

事業所名 放課後等デイサービス いもむし・みのわ

公表：2021年 3月

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6			基準は満たされている。 外での活動も多く取り入れ、のびのびと過ごしている。
	2	職員の配置数は適切である	6			基準以上の配置をしている。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		2	4	2階が活動場所であるため、制限があるが、階段には両側に手すりを付けるなど、できる限りの工夫をしている。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	3	3		毎日のミーティングで、職員の意見を聞き、工夫、改善を行っている。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6			年1回、保護者にアンケートを実施し、保護者の意向を確認している。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6			日本財団が運営する公共事業コミュニティサイトに法人として登録し、公開している。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	2		4	外部評価は現在行われていない。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6			外部研修にも積極的に参加を促し、その機会を保障するように努めている。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	5		1	前期、後期に保護者との面談を行い、子どもの変化に合わせて目標や支援内容を検討している。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	2	1	3	使用していない。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	5	1		毎日のミーティング時に、全員で活動について話し合い、計画している。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5	1		季節や行事に合わせたプログラムで、変化を取り入れている。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	5	1		休日、長期休暇には、普段できない活動を計画し、楽しめるように工夫している。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる放課後等デイサービス計画を作成している	6			集団活動を大事にしなが、個々のニーズに合わせた個別活動も取り入れている。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6			毎日ミーティングで、確認している。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	3	3		メモに残し、次の日のミーティングで、共有している。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	4	2		活動中の出来事や気付きをメモに残し、業務日誌に記載する他、ミーティングで話し合い、検証・改善につながるようになっている。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	5	1		6か月ごとのモニタリングで、振り返りを行い、判断している。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせる支援を行っている	4	2		ガイドラインに沿って支援を行っているが、職員全員が内容の把握をしきれていないので、周知させたい。

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6			児童発達支援管理責任者が参画している。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	5	1		マチコメールの登録や学校から毎月のお便りをいただき、予定や情報の確認ができています。送迎時には児童の様子について、情報交換を行っている。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	1	2	3	医療ケア児の受け入れはしていない。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	2	2	2	学齢の高い子が多くなり、児童発達支援関係の方との関わりは少ない。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	4	1	1	先方より要望があれば行う。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	3		3	支援が難しいとき、助言をいただいている。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある			6	交流できていない。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している		1	5	例年は市の子ども部会に参加し、情報交換を行っているが、今年度はコロナの影響で1度のみ開催だった。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5	1		送迎時や連絡帳にて、活動の様子を伝えたり、家庭からの情報提供を受け、状況や課題の共通理解はできている。
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		1	5	保護者を必要以上に追い詰めないように、言葉や報告の仕方に気を付けている。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	4	2		契約時に説明している。変更等があった時は、必ず説明している。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	3	2	1	保護者からの相談には、共感し受け入れることを第一とし、必要があれば助言を行う。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	1	5		今年度はコロナの影響で実施できていないが、落ち着いたら実施を再開したい。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	6			苦情受付担当者、第三者委員を常に掲示し、報告しやすい体制を整備している。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6			法人の機関紙を年1回発行。毎月のお便りで、活動予定と前月の様子をスナップ写真でお知らせしている。
	35	個人情報に十分注意している	5	1		使用に関しては同意書を頂いている。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6			絵カード、写真を利用し、意思疎通を図れるよう配慮している。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に関わった事業運営を図っている	3	3		法人行事には、地域にお知らせを配布し、参加を呼び掛けている。(今年は法人行事を行っていない)

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	5	1		緊急時対応マニュアルは作成し、保護者にも伝えている。防犯マニュアル、感染症マニュアルは今後策定していきたい。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6			定期的に避難訓練をしている。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	4	2		外部研修に参加し、研修報告をすることでその内容を共有している。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	1	3	2	現在、身体拘束につながるような事例はないが、今後、配慮していかなければいけないと考えている。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	5		1	保護者からの申し出を受けて対応している。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6			事例を報告し共有しているが、傾向と対策の検討を進めていきたい。